

～活動団体の取組み～

当ネットワークに登録する団体等の活動現場を訪問し、活動の見学や取組み取材しました。

■湖西フロンティア倶楽部

地域の活性化を目指して、青年団OBが主体となって平成4年に設立。地域の環境保護活動、青少年リーダーの育成、地域文化の継承や地域内の各種団体との連携による住みやすい地域づくりの活動に積極的に取り組んでいる団体です。湖西市大知波の「おちばの里親水公園」の管理や公園周辺の森の整備など、自然との触れ合いを楽しみながら活動しています。

「おちばの里親水公園」

自然に囲まれた公園では季節ごとのイベントや木の実を使った工作など、いろいろな体験ができます。

「今川子ども自然クラブ」

今川のきれいな水やホタルの住む豊かな自然の中で、自然と触れあったり自然を守る活動を楽しく学んだりするプログラムです。小学生を対象に年間10回実施し、いきもの観察や調査、川遊びや森遊び、棚田の田植えから稲刈りや新米を味わう会など多様な体験ができます。【問合せ】☎090-1291-3210（鈴木さん）



今川でのいきもの観察



自然を活かした遊び場

■OMソーラー株式会社

OMソーラー(株)は太陽熱を利用したパッシブデザインの考えをもとに、自然の力を上手に取り入れた快適な住環境を提案する会社です。エネルギー、建築、環境をテーマにした情報発信を目的に、社屋と敷地「地球のたまご」の見学・環境学習のプログラムも実施しています。

また、専門家に対して自然観察会の会場の提供も行っています。

「OMソーラーの家」

天竜杉を使った回廊



太陽の熱を有効に活用して快適な生活をおくる家づくりを提案しています。一般家庭で利用するエネルギーの約半分を占めるのが暖房と給湯です。これらに必要な熱であれば、電気や石油に頼らなくても太陽熱を上手に使うことでかなりの部分を賄うことができます。

「地球のたまご」

持続可能な循環型社会を目指すOMソーラーのシンボルとして、研究・開発や情報発信の拠点として、ここから様々な技術が生まれ育っていくようにとの願いを込めて「地球のたまご」と名付けられました。

地元の天竜杉を構造材として利用し、「湖岸の再生」のために植栽を周辺の植物で構成し、水質の浄化を行っています。

【問合せ】☎053-488-1700 URL <http://omsolar.jp>



水質浄化のための池と社屋

【はまなご環境ネットワーク事務局から】団体のイベントや活動情報をお寄せください。

Email info@shizuoka-t.net 電話 053-458-3480 FAX 053-455-0328
ブログ <http://kankyo.hamazo.tv/> FaceBook こちらのQRコードを読んで下さい



はまなご環境ネットワーク 広報誌

はまなご環境通信

発行／はまなご環境ネットワーク

発行日／平成28年12月20日

事務局／NPO法人地域づくりサポートネット

浜松市中区常盤町133-13 TEL053-458-3480

Eメール info@shizuoka-t.net

第28号

直虎観光・サイクルツーリズムと浜名湖の環境

2017年大河ドラマ「おんな城主直虎」を機に、浜名湖周辺地域では井伊直虎や徳川家康といった歴史上の人物ゆかりの地を巡る直虎観光が活況を呈しています。浜名湖を舟運やサイクリングで訪れる観光客に楽しんでもらうためには、自然環境・風景が一番のポイントになります。

舟運では、地元の漁師さんがガイド役となり、浜名湖の漁業や生態系の話など漁師さんならではの解説をしてくれます。浜名湖の湖上からの風景ならではのおもてなしで外国人観光客にも大好評です。

浜名湖のサイクルツーリズムは、舟運との連携により湖上と湖岸の風景を堪能できることが他所の自転車観光地とは決定的に異なります。ガイド付きサイクリングでは、地元のサイクリストが浜名湖のお勧めのコースを案内し、自然環境・歴史文化や食などの説明もしてくれます。



船頭の漁師さんが浜名湖のエコガイド



湖岸と湖上から美しい風景を堪能できることが浜名湖サイクリングの魅力

このように、浜名湖のツーリズムでは、豊かな浜名湖の環境を活かすこと、そのために守ることが重要であり、浜名湖の環境は人々の生活や営みとの関わりが強く、環境と観光・暮らしのバランスが重要です。

その他、浜名湖地域では、静岡県による浜名湖の自然や歴史文化を活かし、環境保全・観光・まちづくりなどで活動する団体が連携する「浜名湖魅力発信隊」の取組みもあります。

しかしながら、浜名湖の環境に対する影響は近年あきらかに変化しており、漁業への影響だけでなく、生態系への影響が懸念されています。「最近海の魚が増えてきた!？」と聞きますが、具体的なデータによる経年変化を確認できるものはありません。将来に向けてどのように環境保全をしていけばよいのか「はまなご環境ネットワーク」のメンバーと議論していきたいと思ひます。

直虎観光と環境保全との関わりについて考えながら大河ドラマを見ていきたいと思ひます。そして、観光と環境の連携にも取り組んでいきたいと思ひます。



環境学習会などから環境の変化を学ぶ

平成28年度浜名湖エコキッズ体験塾 報告

■第1回 浜名湖エコキッズ体験塾in村櫛

～浜名湖のいきもの・アマモ場の観察とアマモ・アオサの回収作業～

●7月16日(土) 浜松市西区村櫛町ほか

① 湖岸に打ち上げられたアマモ・アオサの回収作業体験

村櫛海岸に打ち上げられたアマモやアオサを観察し、回収作業を行いました。湿ったアマモやアオサは重かったですが、ゴミも捨てきれいになった海岸は気持ちがいいものでした。

浜名湖にとって大切な役割を果たすアマモやアオサが“困りもの”となっている現状を学びました。回収したアマモは、ダンプカーで村櫛の耕作放棄地に運びました。9月になったらアマモを畑の中に入れて、野菜を育てる浜名湖の農業体験に活用していきます。



船でアマモ場に渡り、いきものを観察



海岸でアマモやアオサを回収し、湖岸の清掃



回収したアマモやアオサを村櫛の畑に運搬

② アマモ場観察(乗船)、浅瀬でのいきもの観察

船で浜名湖ガーデンパーク南側の浅瀬に渡り、いきもの観察をしました。弁天島遊船組合の間瀬組合長から、アサリの食害により浜名湖の観光の目玉である「潮干狩り」が中止になったという話を聞き、アサリがクロダイやタコ、カニなど海のいきものに食べられてしまっていることを教えてもらいました。最近では、アカエイも増えてきていて、浜名湖の環境が徐々に変化してきているということも学びました。



漁師さんから浜名湖の環境・生態系について説明



アマモ場でいきものを観察

浅瀬(干潟)はアオサが一面に広がっていました。アマモの生えている様子や、海のゆりかごの「アマモ場」に棲むヨウジウオや小魚などのいきものを観察しました。最後に参加者全員で記念撮影。



干潟はアオサでいっぱい



参加者と記念撮影(SNSやブログでアップ)

■第2回 浜名湖エコキッズ体験塾in湖西(知波田)

～川・里山のいきもの観察と水質検査・自然素材の工作体験～

●7月30日(土) 知波田・おちばの里親水公園・里山

① 浜名湖と里山の環境に関する講座

浜名湖に流れ込む今川の上流部で、いきもの観察や里山のいきものについて学びました。

湖西フロンティア倶楽部が管理している「おちばの里親水公園」の管理棟で、公園内で観察できる植物やいきものについて、同倶楽部の方から説明してもらいました。



団体が取組む環境保全活動を学ぶ

③ 川のいきもの観察と川や里山の遊び体験



間伐などがされている森は明るい

湖西連峰の里山を歩きながら、倶楽部のメンバーが楽しみながら手作りして子供たちの自然の遊び場を整備している場所に向かいました。

途中、手入れのされていない森の観察では、木々が密集し細い枝が多く下草も生えていないため、このような環境では雨で土が流されやすく、土砂災害や下流への影響があるなど、森林管理の大切さを学びました。

手入れのされている森では、木々の中に太陽の光が差し込み、下草が茂っていて、このような森からの豊富な栄養分が浜名湖にそそぎ、森が魚介類を育む豊かな浜名湖の環境につながっていることを学びました。

里山の沢では、エビやドジョウなどを観察し、環境省レッドリスト・絶滅危惧IB類(EN)のホトケドジョウやサワガニ・モクズガニ・ヨシノボリ・ヌマエビなど貴重ないきものを観察することができました。観察した後、いきものはリリース。その後、倶楽部メンバーの手作りによる森の遊び場でアスレチックを楽しみ、森と川の自然と接する良い機会となりました。



今川の上流に棲むいきものを採取



採取したいきものをみんなで観察



森の遊びを体験

④ パックテスト・里山クラフト体験

今川の上流と河口、三ヶ日(猪鼻湖)などの水でパックテスト(水質検査)を行い、水環境の状況を比較してみました。結果は、猪鼻湖や今川河口付近は上流部よりよごれていることがわかりました。

最後に竹や森の木の実など自然のものを使ってクラフトを体験しました。



水質検査で川の環境を比較



森の自然の材料でクラフトを体験